



シュタイナーの社会思想は、
これからの日本にどのように理解され、生かされる可能性を
持っているのでしょうか。

シュタイナーの社会思想と 「経済の友愛」

2018. 7. 17 (火) 19:00-21:00

●対 談:

パウル・マックイ & 高橋 巖

(銀行家)

(美学者)

●司 会: 和多利恵津子(ワタリウム美術館)

●通 訳/進 行: 入間カイ

●会 場: ワタリウム美術館

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6 Tel: 03-3402-3001

●参加費: 1,800円 サポート会員 900円 アートバス会員 1,440円

お金は社会の血液ともいわれ、私たちにとっても身近く切実なものである一方で、複雑な投機の対象となって人間性から切り離され、国家や企業に壊滅的な打撃を与えることもあります。ミハエル・エンデが目じた地域通貨から、最近のビットコインをはじめとする仮想通貨まで、お金のあり方は私たちの社会への根本的な問いとつねに結びついています。

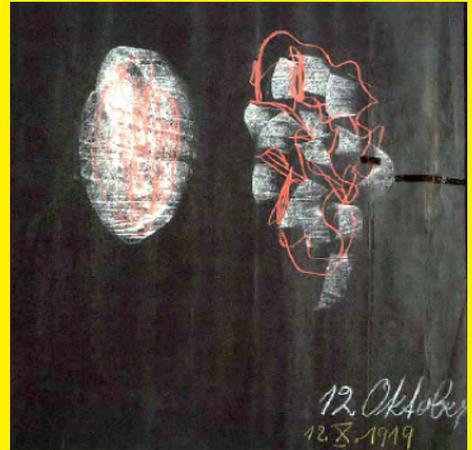
シュタイナーの社会思想に基づいて設立されたドイツやオランダの「共同体銀行」はエコバンクの先駆けとして知られ、緑の党やヨーゼフ・ボイスの活動と並んで、現代の資本主義社会の中で「貨幣」との新しい関わり方を提示してきました。

このたび、オランダのトリオドス銀行、ドイツのGSL銀行の設立と運営に携わり、スイス・ゲーテアナム理事、社会科学部門代表を歴任されてきたパウル・マックイ氏の来日を受け、日本におけるシュタイナー思想の第一人者である高橋巖氏との対談が実現しました。

マックイ氏は、高橋巖氏が近年提唱されているベーシックインカムについても積極的に関わっており、その代表的論客であるゲッツ・ヴェルナー氏(ドイツに多数の店舗を展開するdmデーエム創業者)をゲーテアナムに招いて国際会議を行っています。高橋巖氏とともに、シュタイナーの経済思想、共同体銀行、ベーシックインカムについて語り合ってくださいと、日本社会の今後を考えるうえで重要な手がかりが得られるのではないかと期待しています。



ルドルフ・シュタイナー 経済が必要とするもの, 1919



●パウル・マックイ(Paul Mackay)

1946年、香港に生まれる。ロッテルダムで経済学を、フオンテヌブローで経営学を学ぶ。数年、国際金融の仕事に就いた後、1974年-1979年にイギリスとドイツで人智学に出会い、その研究を始める。1977年から2012年まで人智学銀行の分野で積極的に活動。オランダのトリオドス銀行の共同設立者/経営責任者として、また2012年3月までドイツのGLS銀行の運営委員会議長を務める。2012年3月よりスイス・アーレスハイムのヴェレダ株式会社代表取締役。1996年-2018年普遍アントロポゾフィー協会理事。2000年よりドルナッハ・ゲーテアナム自由大学社会科学部門代表。



●申込方法:

ご参加をご希望の方は、下記、申込書を送信いただき、併せて、下記の口座へお振込ください。ご入金をもって受付完了となります。ご入金確認後、7/12までに受付票をE-mailにて返信いたします。

●送信先: Fax: 03-3405-7714

E-mail: order@watarium.co.jp

●振込先: 三井住友銀行 青山支店

[普]1033281[名義]ワタリウム美術館

●携帯電話メールはワタリウム美術館からの返信が入らない場合がございますので、ご注意ください。

●ご入金後のお客様のご都合による返金はできませんので、ご注意ください。

●定員になり次第、受付を終了いたします。

●シュタイナーの社会思想と「経済の友愛」_申込書

氏名	会員 No.
TEL	FAX
E-mail	
ご住所	